

県外派遣報告書

審判員名	藤林 比登美	所属	U18
大会名	令和6年度全国高等学校総合体育大会 バasketボール競技大会		
期 間	8月3日(土)～8月6日(火)		
会 場	福岡市総合体育館		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
7月25日(木)	審判研修会	オンライン	
7月29日(月)	審判研修会	オンライン	
8月4日(日)	1回戦	福岡市総合体育館	
8月5日(月)	2回戦	福岡市総合体育館	
会議 講義 内容			
<p>【第1回】7月25日(木)</p> <p>研修①「コール・ザ・オヴィアス・～コール・ザ・インパクト&ベーシックなプレーコーリング～」 講師： 村上 恵美氏(神奈川)／古畑 香子氏(茨城)</p> <p>正しい判定を積み重ねるには・・・「Basic mechanics」 →IOTの実践</p> <p>Position adjust 「ポジションに入ること」 →コート上のプレーによって決まる その前 その時 その後 全てを把握できる位置に自分を置く=Position adjust 繰り返すことで、コール・ザ・インパクト、ベーシックなプレーコーリングに繋がる。</p> <p>EOQ/EOG 注目される場面として、メンタル的にもインパクトがある。</p> <p>コート上のいろいろなプレッシャー、ノイズがある中でベーシックなメカニクスを徹底する！ ゲームの始まりから終わりまでベーシックなメカニクスを遂行することで、ゲームコントロール、クリーン・ザ・ゲームに繋がる。</p> <p>研修②「ペイシエント&ケイデンス」 講師： 平出 剛氏(栃木)／岩井 遥河氏(東京)</p> <p>○プライマリーの判定プロセス <u>ペイシエント・ホイッスル</u> ……我慢することではない！全ての情報に基づきプレー分析する。 START▶□DEVELOPMENT▶□FINISH▶□DECISION</p> <p><u>クイック・ホイッスル</u> ……判定の制度を下げてしまう START▶□DEVELOPMENT▶□DECISION▶□FINISH</p> <p>→クイックホイッスルをできるだけ少なくするためのペイシエントホイッスルであることを理解し、プライマリーの判定材料にする。</p> <p>○セカンダリーの判定プロセス <u>ケイデンス・ホイッスル</u> ……プライマリーが決断した上で、ゲームに必要なものである筈だとセカンダリーが決断する。 START▶□DEVELOPMENT▶□FINISH▶□DICATION No call ▶□DESITION secondary</p> <p>ペイシエント、ケイデンスには判定のプロセスがあるということを理解する必要がある。</p>			

【第2回】7月29日(月)

研修③「処置ミスゼロにむけて ~クルーとしての取り組み~」

市川 雄介氏(広島)／山本 雄大氏(三重)

処置ミスをしないうために

1. ミスが起る状況を知っておく
2. ミスを防ぐ術をクルー・個人で持つ

それぞれのどんな約束事が必要か？PGCで確認しておく。

EOQ・EOQ /トスアップ/OOB/ルーズボール/TF/UF/怪我人・介助

処置ミスを防ぐために・・・

正しいルールを理解、クルーの約束事が必要

3人で集まって情報交換する際には、それぞれが「何を見て」「何を判定して」「どんな情報を持っているのか」を共有。

→それに伴った処置と再会方法の確認がスムーズな再開へ。

また、TOに情報が伝わらないということがないよう、情報の整理をしてTOに分かりやすく伝える。

研修④「処置ミスゼロにむけて ~TOとの連携~」

尾形 美樹氏(長野)／古畑 咲氏(東京)

◆TOミーティングで確認すべきこと

スコアラー/Aスコアラー/タイマー/ショットクロック それぞれの担当の方と以下のような内容を確認。

(※あくまで一例)

違和感はその場で確認すること、2or3の対処、クロックのスタートのタイミング、タイムアウト表示、交代やタイムアウトの請求について、8秒の成立について、投げ入れのケース etc...

その他

- ・会場により機材や得点などの表示物が特殊な場合は事前に確認
- ・タイマー・ショットクロックの発光があればブザー音とのズレはないか
- ・TOが持っている情報は惜しみなく共有をしてもらう

TOクルーも含め、目配せ、気配りをしてゲームを進めていくことが大事。

◆コート上でTOクルーと取り組むこと

問題解決をするための効果的な方法 『助言よりも日々の雑談』

置き換えると・・・

アイコンタクト、OKサイン＝雑談

雑談というコミュニケーションを取ることで、問題を事故へつなげないこと！

◆処置ミスゼロへの取り組み

レフリーが予期せぬトラブルは少なからずある。どのような根拠を持ってクールで決めていくかが重要。

日頃から、どのような場面でミスが起こり得るのか、そういった事象をたくさんイメージする。

自分の失敗や仲間の失敗から気づきに変え、どのようにアプローチできるのかを考えていく。

実技				
担当試合	期 日	8月4日(日)		女子
	対戦カード	英名(香川)	VS 東海大学付属諏訪(長野)	CC U1 U2
	相手審判	CC 金岩 貴之氏(佐賀) U2 渋谷 竜也氏(福岡)		
ミーティング内容		主任 佐田 明美氏(大分)		
<p>ゲーム前のミーティングでは、それぞれが事前に行ったスカウティングの内容を共有した。主に、チームのプレイスタイルやキープレイヤーの確認をし、映像を用いて共通認識を図った。また、ベーシックなメカニクス、約束事の確認を行った。</p> <p>ゲームの大きな反省点として、2QのEOQで両ベンチに不信感を与えてしまった。現象としては、28.3秒白のDFリバウンドからの攻撃、5.3秒の時にリングに当たったが、ショットクロックのリセットは行われずブザーが鳴り、白のOFリバウンドからの得点で2Qが終了した。TO席と反対サイドの現象であった為、リセットのジェスチャーを示す等の対応や、TOへのヘルプを行うべきだった。終わらせ方として、はっきりとEOQを示す必要があった。</p> <p>1試合通して、プレイヤーが転んでしまうケースも多く、どちらに責任があるのかということを示していく必要があった。終始、判定に対してリアクションが見られたが、クルーとして共通認識を持って進められたのは良かった。</p>				
担当試合	期 日	8月5日(月)		女子
	対戦カード	県立小林(宮崎)	VS 浜松開誠館(静岡)	CC U1 U2
	相手審判	CC 三島 彩氏(広島) U1 根反 祥恵氏(茨城)		
ミーティング内容		主任 和田 敏文氏(福岡)		
<p>ベーシックなメカニクスの確認、チーム情報などを共有してゲームに臨んだ。試合開始後、1Qについては選手がとてプレーに集中できていたが、2Qの途中から出てきたイリーガルなものをシンプルにコールするべきであった。</p> <p>ゲームの始まりから終わりまで、コミュニケーションを求めてくるベンチであった為、線引きが曖昧になってしまった。ベンチの意見を聞きましようPGCでの話もあったが、聞きすぎてしまった部分もあった。4Q 5:10ではベンチへテクニカルファウルを宣したが、そこに至るまでの相手ベンチへの対応等も課題となった。</p> <p>2or3が割れたケース、ショットクロックの訂正、TFの再開方法等について、クルー3人で丁寧に確認をしながら進められたのはクルーワークとして非常に良かった。しかし、私自身、寄ったものの情報を持っていないこともあった為、プライマリー以外のことにもより一層気を配っていく努力が必要だと感じた。</p>				
全体の感想				
<p>今回、ずっと担当してみたかったインターハイへ初めて派遣していただけたことを嬉しく思っております。インターハイは、ウインターカップとはまた違った迫力や熱量を感じることができ、大変貴重な機会でした。どの試合も白熱していて目が離せない展開で、会場の一体感や雰囲気からも高校生のバスケットへ懸ける想いをすごく感じた大会でした。それと同時に、審判員としてコートに立った時には、選手のプレイを最大限に引き出せるような判定をしていきたいと思いました。</p> <p>事前に実施していただいた審判研修会では、多くの情報や知識を吸収することができ、それをオンザコートで意識して取り組むことができ、実りあるものとなりました。研修でありました「処置ミスゼロにむけて」については、ミスが起こる状況を知っておく必要がありますが、まだまだ知識が足りないと感じております。普段あまり経験をしないTOミーティングの実施もあり、TOとのコミュニケーションの取り方も今後意識をして取り組んでいくことの一つになりました。</p> <p>最後になりましたが、大会の開催にあたり準備、運営をくださった福岡県バスケットボール協会の及び福岡県高体連専門部の皆様には細部までご配慮いただき、感謝の気持ちで一杯です。今大会でお世話になりました講師の皆様、審判員の皆様、TOクルー、大会関係者の皆様には心より御礼申し上げます。</p>				